



名古屋柳城短期大学

ちやべるにゆうす

第21号 (クリスマス号)

2011年12月20日



11月29日、夕闇が迫り、見上げる寒空に清々しく星が瞬き始めた夕刻、本校のクリスマスツリー一点灯礼拝が行なわれました。参列者はそれぞれロウソクを手にし、本校正面玄関に飾られたクリスマスツリーを囲み、ロウソクとクリスマスツリーに美しい光が灯されるのを心待ちにして祈りを始めました。

祈りを始めて、しばらく経った時、それまで私たちを包んでいた夕日の微かな光がすっかり落ち、聖歌の歌詞も、祈りの言葉も読めなくなるほどの闇が私たちを取り囲みました。すると、聖歌がうまく歌えず戸惑う人、懸命に祈りの言葉を読み取ろうと四苦八苦する人、何かの明かりを用意した方が良いかとも思い、それをどのように用意しようかと思案する人など、多くの人々が祈り以外の事柄に心を奪われる様子が伺えました。その様子を伺いながら、祈りを先導していた私自身も、少し落ち着きを失い、動揺していました。

闇とは、静かに潮が満ちるようにいつの間にか人々を取り囲み、不意にそのことに気付いた人々は戸惑い、動揺し、不安を心の中に宿し、心そのものさえ闇に浸食されてしまいます。その心の闇を取り除いてくれるものは一体、何でしょうか？

そのように、一同が戸惑い、祈りから心が遠ざかりつつあったその時、神に希望の灯火を求める祈りを行なう時がやってきました。その祈りの後、その求めに応えるかのように、クリスマスツリーに美しい光が輝き、参列者それぞれが手にしているロウソクに温もりのある火が灯りました。すると、それまで私たちを取り囲み、私たちの心の中に戸惑いや不安を植え付け、祈りを消し去ってしまっていた闇は一蹴されていました。

美しいクリスマスツリーと温もりのあるロ

ウソクの灯火のもと、聖歌がうまく歌えず戸惑っていた人からは澄んだ声が、懸命に祈りの言葉を読み取ろうと四苦八苦していた人からは朗々と賛美の祈りが聞こえ、そして、何よりもその場にいた全ての人々の心が神への祈りに向き直っている光景が私の目に鮮やかに映りました。

闇に光が射した時、世界とそこにいる全ての人々は一変します。闇に射した光がたった一筋の光であったとしても、その光は闇の中で煌々と輝き、人々はその光から大なる希望と喜びを見出すことができます。世界には、人々には光が必要なのです。

クリスマスの夜、一体、どれだけのクリスマスツリーが美しい光で世界の闇夜を彩り、人々の笑顔を明るく照らし出すのでしょうか。一体、どれだけのロウソクが優しい灯火で世界に温もりを与え、人々の心に愛と慈しみを満たすのでしょうか。

「光あれ!!」

チャブレン 司祭 ヨセフ 下原太介

か。

想像してみてください。本校のクリスマスツリーの前で写真を撮る学生たちの笑顔を。想像してみてください。愛する子どものためにプレゼントを抱え、家路を急ぐ父親の姿を。想像してみてください。手に持つ武器をロウソクに変え、祈る兵士たちを。

そして、その日決して忘れてはならない場所があり、人々がいます。想像してみてください。東日本大震災で被災した方々が過ごすクリスマスの夜を。そして、願い、祈ってください。津波で全壊した街に希望の光が灯るように。愛する家族を失った方々の涙が拭かれるように。私たちのこの願いと祈りが、少しでも被災者の方々の心に差し込む一筋の光となるように。光あれ、被災地に!!世界の苦しみと悲しみに!!

東日本大震災ボランティア報告

学校法人柳城学院創立113年記念礼拝第2部

「いっしょに歩こう!プロジェクト」東日本大震災復興支援ボランティア活動 実施報告会

11月1日(火) 10:30~11:30



名古屋柳城短期大学では、物資や、紙芝居などを被災地の園に送るなど、保育科なりの援助を学校全体で早くから取り組み、関心を寄せてきました。その一環として、9月1日~4日まで聖公会の東日本大震災支援「いっしょに歩こう!プロジェクト」に参加し、被災地で子どもにかかわる支援を行うこととなったのです。参加した学生は18名でしたが、それ以上に応募した学生が多く、先着順に打ち切らざるを得なかった状況からも、学生の関心の高さがうかがえます。

ボランティア日程は、1日に学生全体で被災地域に訪れ、2、3日は宮城県を中心に活動する「青葉グループ」(11名)、岩手県を中心に活動する「室根グループ」(7名)に分かれ、子どもにかかわる支援を行いました。そして4日に再び全体で集合し、仙台基督教会での主日礼拝に参加しました。

1日、津波の被害に遭った仙台市若林地区荒浜を訪れました。民家や田んぼがあった土地は、半年間手つかずのまま荒れ果て、その生い茂った雑草の中に、朽ち果て放置された車。鉄骨が折れ曲がった建物、3階部分まで津波が押し寄せ、修繕の仕様のない小学校は、廃バイクの収集場に。半年の間に集められた瓦礫は、まるでゴミ集積場のように高々と積み上げられ、日常ではありえない、異様な雰

囲気を放っていました。車で向かっていた私たちの車内は、しんと静まり返りました。誰もが「かける言葉が見当たらない」、そんな状況の中で、「ここで生活している人がいるんだよね…」とある学生がつぶやいた一言に、次の日から、この被災地で生活する子どもたちに会うことの責任を突き付けられた気持ちになりました。



青葉グループは、2日、津波の被害に遭われた宮城県山元町ふじ幼稚園を訪れました。ふじ幼稚園は震災後、園舎の被害が大きかったため休園していましたが、8月下旬、ようやく別の場所に公民館を借りることができ、再開したばかりでした。ここでは、園児が乗っていた通園バスが津波で流され、8名の園児と1名の職員が亡くなっています。その時の子どもたちの心の傷を、私たちは園児とかかわる中で感じました。何気ない子どもたちの遊び風景。しかし、やけに高く積み重ねられるブロックに、学生が「あんまり高くすると危ないよ?」と言葉をかけると、その子どもは「だって、これなら津波がきても、安心してしょ」と話しました。また、被災により救助される様子を絵に描いている子どもや、クラスでは「お葬式ごっこ」が流行っており、子どもの心に未だ残っている震災に対する思いを、園児たちと共に過ごすことで感じました。

私たちが幼稚園を訪れた日、遅れて登園したある男の子は、震災後幼稚園に登園したからず、津波を想像してしまう雨の日は外に出ることさえ拒んでいたそうです。この日の天気は雨。にも拘らず、その男の子は震災後初の登園を、笑顔で飾りました。その登園を、園長先生や担任の先生は、どれだけ喜んだか…。子どもたちは震災による心の傷を抱えながら、それでも確実に、一つひとつ乗り越えています。その傍らに寄り添う先生方の存在は、私たちの心に強く残りました。

3日は、南三陸町の志津川ベイサイドアリーナで、フィリピンの子どもの託児を行いました。日本語での避難情報が上手く伝達されなかったフィリピン人の母親たちから、日本語を習いたいという要望が出たのです。今プロジェクトではそのニーズに応えることになりましたが、日本語を習う間、子どもを預かってほしいという新たなニーズも生まれることとなり、今回の私たちの活動に至りました。被災した方のリアルな思いに応えると共に、普段の生活ではなかなか気づけない被災者の実情を考えさせられる活動となりました。



室根グループは2日、気仙沼市愛耕幼稚園を訪れ、子どもたちと共に昼食をとり、園長先生から震災についてのお話を聞きました。「なにせ、まだ半年しか経っていませんから…」と語る園長先生の言葉に、私たちは、はっとさせられました。ボランティアの準備の時から、被災地に訪れてからも、私たちは「もう半年も経ったなんて」と口々に言い合っていたのです。園児の3分の1が仮設住宅から登園し、夜泣きや夜叫が未だ治まらず、震災の恐怖と闘っています。そんな子どもたちと

共に震災の恐怖と闘っている保育者にとっても、また、薄れることのない「まだ半年しか経っていない」記憶として残っていることを感じました。

3日は、岩手県一関市聖ナタナエル教会で、地域の子どもたちを集め、おやつ作りなどの催しを開きました。絵本の読み聞かせや体操、ゲームなど、子どもたちも学生も、皆が楽しく笑いあえるひと時となりました。震災により遊び場が減る中、皆で集まれる場所をもてたことが、何よりの喜びだったのかもしれない。

ふじ幼稚園では、津波に流された園バスか



ら、危険を顧みず、泥水を飲みながらも、最後の最後まで子どもたちを助け、その場で亡くなっていった先生がいます。私たちはこの先生を始め、被災地で目の前の子どものために尽くす先生方の姿に、保育者のあるべき姿を見たような気がしました。これをどうしても他の学生にも伝えたい。そんな思いが、今回のボランティア報告会へとつながりました。報告会を終え、涙を流しながら聞いてくれるなど、学生から様々な意見や感想をいただき、柳城生全体で、この経験や思いを共有できたのではないかと思います。今回の報告会は、私たちにとって一番の喜びでした。

(文責 保育専攻科2年 名和孝浩)

謝辞：本ボランティア活動にあたり、プロジェクトに参加させてくださった大学、聖公会の方々、ボランティアから報告会まで、ご指導・引率してくださった先生方に御礼申し上げます。

クリスマス特集



切手に見るサンタクロース

尾上 明子 (本学教員)

今年もクリスマスがやってきました。クリスマスには、サンタさんがつきものですよ！

さて、子どもたちの大好きなサンタクロースは、空想上の人物だと思っている人はいませんか？幼い頃、「サンタクロースがいる、いない」でお友だちとけんかをした思い出のある人もいるかもしれませんね！でも、サンタクロースは、本当にいるんですよ！！3～4世紀の実在の人物である聖ニコラウスは、移民の国アメリカでセント・ニコラウスがなまってサンタクロースと呼ばれるようになりました。聖ニコラウスの一番有名な伝説は、次のようなお話です。聖ニコラウスは、あるときこんな話を耳にしました。身分は高いが貧しい人がいて、娘を売って暮らしをたてようとしているというのです。ニコラウスはそれを聞きつけ、夜こっそりその家に行きお金を投

げ入れます。お金は、木靴に入りました。何回か同じことをしたニコラウスですが、家人はどうもそれが誰かをつきとめます。ニコラウスは、このことは自分が生きている間に公言しないようにと口止めします。暖炉や枕元に靴下をぶら下げるのは木靴の代わりと言われています。こんなふうに隠れて善行をするニコラウスは、子どもを生き返らせた、飢饉のとき人々を救った、船乗りたちを嵐から守ってくれたなど数多くの伝説を持つ人です。今日のようにそりに乗って空を駆け巡り、世界中の子どもたちにプレゼントを配ってくれるおじいさんのイメージは、アメリカが発祥です。世界中で愛されるサンタクロースは、切手にもなって多くの国から発行されています。いろんな姿のサンタクロースを見ることができ、楽しいですね！！



ーイギリスー



ーオーストラリアー

ーブラジルー

ーマン島ー
(イギリス領)



ーマーシャル諸島ー

後期の礼拝から

村田 康常 (本学教員)

10月26日(水)の礼拝で、柳城村田ゼミと名古屋聖マタイ教会の共同事業「ぐるんばえほんのつどい」を紹介させていただきました。

「ぐるんばえほんのつどい」は、地域の親子がつどうおはなし会です。絵本『ぐるんばのようちえん』(西内ミナミ作、堀内誠一絵、福音館書店)にちなんで名づけられました。



学生たちは、一日かぎりのおはなし会のために、壁面制作や劇の準備、読み聞かせの練習に、とても長い

時間をかけます。用意したものが、子どもたちと一緒に



に楽しめるか、不安もあります。だから、みんな一生懸命です。

ここでは、子どもたち、お母さん、お父さん、学生、教会の人、みんなが、絵本と一緒に読みます。絵本を題材にした劇や出し物を、子どもたちは食い入るように見つめます。教会の人、何週間も前から練習を重ねて、紙芝居を演じます。



一番小さい子どもがまん中になって、みんなが笑顔になります。

けれども、みんながいつも笑顔というわけではありません。ぐずる子も、人見知りする子もいます。学生も、お母さん、お父さんもどうしていいかわからない。そんなときもあります。

そういうときには、柳城パワーです!!

歌って、踊って、演じて、笑う!!

お母さんにしがみついていた子どもも、この元気に



どどん巻き込まれて、身をのりだしてきます。一緒に踊りだします。お母さんも、お父さんも踊りだします。



いつも、100冊以上の絵本をそろえています。でも、

「ぐるんばえほんのつどい」の主役は、置いてある絵本ではありません。子どもたちと、学生と、お母さん、お父さんです。一緒に、

同じ絵本を楽しみます。



一緒に読んでくれる人がいると、子どもたちはど

どん絵本の世界に入っていきます。最後まで聞いてくれるか心配していた学生たちも、子どもと一緒に夢中になります。



読んでくれる人と子どもたちは、自然と心がよりそっていきます。体もよりそっていきます。あちこちに人の輪ができます。

あちこちに、ふれあい生まれ、笑顔が生まれます。

柳城のキャンパスに教会があつて

よかったと実感できるような、そんな交わりをこれからも大切にしていきたいと思ひます。



後期のイベント

後期に行われた創立記念礼拝、墓地礼拝、クリスマスツリーの点灯式といった様々な出来事を写真とともに振り返ってみたいと思います。

創立記念礼拝

11月1日(火)に創立113周年記念礼拝が行われました。第1部では、下原太介チャプレンの司式の下、創立記念礼拝を執り行い、渋澤一郎理事長から祝辞が、新海英行学長から式辞が語られました。



第1部 創立記念礼拝

第2部では、9月に参加した東日本大震災被災者支援の学生ボランティア報告会が専攻科保育専攻2年生の名和孝浩さんを中心に行われました。



第2部 学生ボランティアの報告会

墓地礼拝

午後からは、名古屋市八事霊園にある日本聖公会中部教区の共同墓地まで赴いて、ヤング先生をはじめとする柳城学院関係者の墓地礼拝を執り行いました。



墓地礼拝

点灯式

11月29日(火)、オーナメントで飾られた玄関のクリスマスツリーの周りに学生と教職員が集まり、手にろうそくを持ってお祈りとツリーの点灯式が行われました。



クリスマスツリー点灯式の様子

クリスマス献金先

皆様からの尊い献金は、以下のところへお捧げいたします。

- ❖ 東日本大震災被災者支援
- ❖ アジア保険研修財団
- ❖ 名古屋キリスト教社会館
- ❖ 岐阜アソシア
- ❖ 岐阜ダルク
- ❖ 国際子ども学校
- ❖ キリスト教保育連盟
- ❖ 聖公会保育連盟
- ❖ ひだまりの里
- ❖ 中部教区センター (可児ミッション)



世界のクリスマスと絵本展 開催中

12月1日(木)~2012年1月6日(金)
名古屋聖マタイ教会・本学図書館

2011年12月20日発行 第21号

発行所 名古屋柳城短期大学
名古屋市昭和区明月町2-54

編集兼
発行者 名古屋柳城短期大学 宗教委員会
印刷所 株式会社 丸和印刷